

くいはまみんなの公園 代替公園

ワークショップニュース

日時：平成31年3月11日（月）
 時間：18：30～20：30
 会場：久里浜コミュニティーセンター第1会議室
 参加者：ワークショップメンバー12名、見学者3名

第4号

■第4回ワークショップを開催しました。

前回、第3回のワークショップでは、公園の基本となる、ゾーニング基本動線がまとまりました。今回、第4回ワークショップでは、導入施設の配置や規模による比較案を提案し、各班で話し合ったのちに、全体で話し合いました。遊びの広場や屋内施設、ピオトープなど、メインとなる施設について、意見が一致し、概ね共通のイメージを確認することができました。また、市民による運営会議づくりなど、管理運営についての意見も各班で共通でした。代替公園のワークショップは、今回が最後になります。今後は、皆様と検討した内容を基に設計作業を進めていきます。



■ワークショップのスケジュール

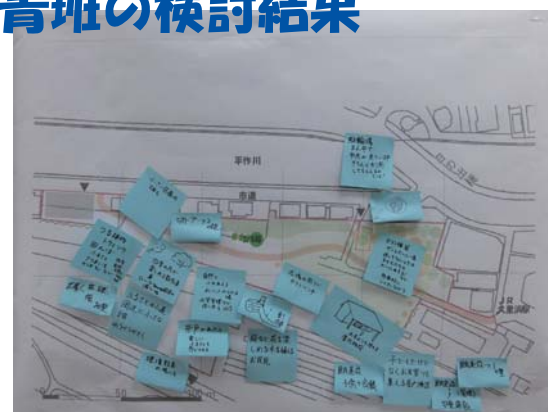
第1回 ワークショップ	1月17日（木） 18：30～20：30	今の公園を確認しよう！
第2回 ワークショップ	2月6日（水） 18：30～20：30	みんなのイメージを形にしよう！
第3回 ワークショップ	2月22日（金） 18：30～20：30	みんなのイメージをひとつにまとめよう！
第4回 ワークショップ	3月11日（月） 18：30～20：30	みんなのイメージを確認しよう！

■赤班の検討結果



- ・屋内遊び施設とピオトープは欲しい。畑は、要検討。
- ・行政とボランティア団体などが関わって公園運営方法の話し合いを行いながら、活動していくのが望ましい。
- 施設について
- ・駐輪場は、遊びの広場と奥の2箇所にあると良い。有料という意見もあるが、負担がかかるので検討が必要である。
- ・遊びの広場は、どろんこや水遊びの場所がほしいが、降雨時の地面の状態や管理の問題があり、ダスト舗装のボール遊びのできる場所も必要という案になった。
- ・屋内施設と電車車両の両方を導入したいという意見もあったが、両方は難しいため、屋内施設を選択するという案になった。
- ・ピオトープは必要で、広場の奥の線路側の位置になった。水の管理が難しく、循環設備を整えることが大事である。
- 運営面について
- ・屋内施設には常駐の管理人が必要となり、公園全体を見ていくような管理運営をしてもらえるのではないかな。
- ・畑は欲しいが、収穫物の利用方法の課題がある。運営方法の取り決めが必要のため、検討中となった。
- ・公園運営に、行政とボランティア団体などが関わって検討していくのが望ましい。
- 隣地住民の方のご意見【必ず配慮すべき意見】
- ・隣接場所の低木植栽の検討は、ありがたいと思っている。
- ・公園境界に3m程度のフェンス（景観を阻害しないネットフェンス等）を希望。（防犯上、フェンスが高くないと窓を開けられない）
- ・家の窓ガラスも目隠しのため、自費で替える予定である。（行政がやるべきという意見もあった。）
- ・公園をつくることに反対ではないので、駐車場、駐輪場はいい。
- ・できれば管理人は常駐してほしい。また、溜まり場にならないか心配。警察による巡回もしてほしい。
- ・余りにも騒音があった場合、申し立ての窓口はどうするのか。
- ・屋内での火気使用は良いが、屋外では火は使ってほしくない。

■青班の検討結果



- ・屋内遊び施設とピオトープ、畑は欲しい。
- ・ボランティアで入りやすく、市民が使いやすい公園になっていけるような話し合いの場が引き続きあると良い。
- 施設について
- ・駐輪場は、奥にあると使いにくい。真ん中の位置にすると目立つため、目的外利用されなくてよい。
- ・遊びの広場のダスト舗装はゲートボール場1面分の広さとして、子供のボール遊び等にも利用したら良い。
- ・ピオトープは広場が広く使えるように、広場の奥の線路側の位置にしたい。
- ・屋内施設は、広場が広く使えるように、広場奥の端が良い。
- ・北側は、四季の花が楽しめるふるさとの小道とし、その中に市民が使える小さな畑もあると良い。畑を使う人が居なくなった場合でも、融通が利きやすい。
- ・園路沿いにはサクラ等を植えて、お花見ができると良い。
- ・広場周りにかまどベンチを配置して、普段はイベント等で利用し、非常時も利用できると良い。
- ・井戸をピオトープの近くに設け、子供が水に触れられると良い。
- ・ピオトープは、入れない部分と、子供たちが入れる水に親しめる部分があると良い。
- ・ふるさとの小道に入れる植物は、つる植物（トケイソウ等）。
- ・畑には、さつまいもやかぼちゃ等を植えると良い。
- ・遊具は、屋内施設の中にあれば、屋外には必要ない。
- 運営面について
- ・屋内施設は、学童保育が利用できるようなと良い。子供だけではなく、お年寄りなど幅広い世代が休憩したり、集える場にできると良い。
- ・今後も、ボランティア活動がしやすく、市民が使いやすい公園になっていけるような話し合いの場があると良い。（例：ピオトープや井戸の水質管理、畑の利用等）

■緑班の検討結果



- ・屋内遊び施設とピオトープ、畑は欲しい。
- ・駐輪場は、無い方が良い。
- 施設配置について
- ・駐輪場は、場所を限定しても乗り捨ててしまうことや、駅の利用者の駐輪の可能性があるのでは無い方が良い。
- ・駐車場は、近隣に保育園、障害者施設、デイサービス等があるため、マイクロバスが2台程度の場所が必要。
- ・花壇は難しいという意見が出た。畑は作った方が良いので、雑草対策として一度ユンボで掘り起こしてはどうか。
- ・ピオトープは、現在のくいはまみんなの公園の自然を継続するために設置したい。生き物の移動をしたい。
- ・遊びの広場に、今と同じ大きさのゲートボール場1面分のダスト広場を設置する。
- ・屋内施設はぜひ設置したい。トイレは中外から使えるようなものを屋内施設と合築するような形で設置する。
- ・遊具は幼児が遊べるような小さいものを2～3個設置し、健康遊具も設置する。駅の方から見た時に、屋内施設周辺では子供たち、奥の方ではお年寄りの方が活動していると、みんなの公園らしさが表れるのではないかな。
- ・築山は、遊びの広場の角に三角形の形で設置したい。
- ・芝生広場はできるだけ広いスペースを残したい。
- ・防災的な観点から、かまどベンチや防災倉庫もあると、有用になる。
- 運営面について
- ・案内板にQRコードを設け、公園利用規約、市民運営会議、ゲートボール場の使用予定などに、スマホでアクセス出来るようにして、情報提供の場所として有用に活用したい。
- ・駐車場は有料とすることにして、管理体制や料金等はこれから考えていく必要がある。

■とりまとめ



- 公園のテーマ
「もっとみんなの公園」
- 自然・憩い・遊び・子育て -
- まとまった内容
- エントランスゾーン
- ・舗装の広場と小規模な花壇とする。
- 子ども遊びのゾーン
- ・できるだけ広い芝生（草付き）広場とする。
- ・公園のシンボルとなる屋内遊び施設は、広場の端部に設置。
- ・屋内遊び施設は、お年寄りも使いやすいくつろげる空間。
- ・周遊できるサブ園路を設ける。
- ・線路との間に防球ネットを設ける。
- 自然ふれあいゾーン
- ・隣接民家近くは緩衝緑地とする。景観や通風を阻害しない樹種。高さ3mのフェンスで囲う。
- ・ピオトープは、広場の奥の線路側の位置。
- ・園路沿いには樹木を植栽して、四季の花が楽しめるふるさとの小道とする。
- ・その奥に小規模な畑。運用方法は別途、検討。
- バックヤードゾーン
- ・駐輪場を整備。有料でよい。
- 今後、検討する内容
- ・駐輪場整備。位置。
- ・遊具の導入。
- ・屋内遊び施設のあり方、規模、管理運営方法。
- ・畑の導入。管理運営方法。
- ・駐車場の規模。管理体制。
- ・公園運営について市民が参加する仕組みづくり。
- 配慮する事項
- ・近隣住民の意見を優先させる：具体的な協議を行う。
- ・公園を知ってもらうための工夫：周辺のサイン計画